

## 市長メッセージ

「第26回広島WPPCフラッグセレモニー」が開催されるに当たり、メッセージをお送りいたします。

1945年8月6日8時15分、広島の上に「絶対悪」である原子爆弾が放たれ、立ち昇ったきのこ雲の下で広島は一瞬にして地獄と化しました。この原子爆弾は、罪のない多くの人々に惨たらしい死をもたらしただけでなく、放射線障害や健康不安など心身に深い傷を残し、社会的な差別や偏見を生じさせ、辛うじて生き延びた人々の人生をも大きく歪めてしまいました。

このような地獄は、決して過去のものではありません。核兵器が存在し、その使用を仄めかす為政者がいる限り、いつ何時、誰が遭遇してもおかしくない状況に、私たちは立たされているのです。それ故、私たちは、73年前、あのきのこ雲の下で何が起こったかを知り、被爆者の「こんな思いを他の誰にもさせてはならない」という核兵器廃絶を願う切なる思いを世界の人々に広げ、次の世代にも受け渡していかなければなりません。

昨年7月、国連では、核保有国や核の傘の下にある国々を除く122か国の賛同を得て、核兵器の使用や保有、配備、威嚇等を禁止した核兵器禁止条約を採択し、核兵器廃絶に向かう明確な決意が示されました。各国政府には、国家の枠を超えて、「核兵器のない世界」に向けた取組を更に前進させていくことが求められています。

そうした中、私たち市民社会は、世界中の為政者が核兵器廃絶に向け、「良心」に基づき国家の枠を超えた「誠実」な対応を行えるような環境づくりを後押ししていく必要があります。そうした意味からも、皆様が核兵器のない平和な世界の実現に向け、今年も「広島WPPCフラッグセレモニー」を開催され、平和を祈り、その願いを世界に向けて発信されることは誠に意義深く、その取組に対し深く敬意を表します。

本市が会長都市を務め、世界の163か国・地域の約7,600を超える都市で構成する平和首長会議としても、市民社会において核兵器廃絶に向けた国際的な機運を高めるため、全力で取り組んでいく所存です。

皆様には、今後とも「絶対悪」である核兵器の廃絶と世界恒久平和の実現に向け、共に力を尽くし行動して下さることを心から期待しています。

終わりに、「第26回広島WPPCフラッグセレモニー」の御成功と御参会の皆様のご今後の御健勝と御多幸を心よりお祈りいたします。

平成30年(2018年)8月6日  
広島市長 松井 一 實